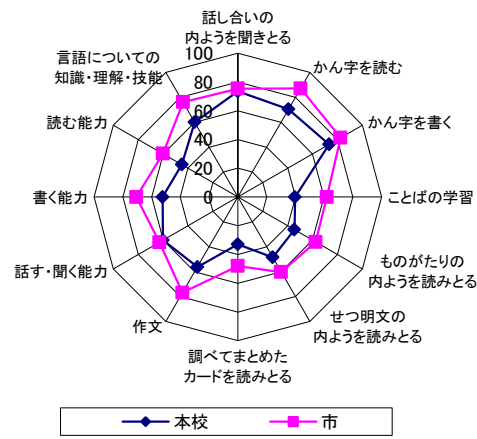


宇都宮市立上河内西小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	73.5	75.4
	かん字を読む	70.5	87.2
	かん字を書く	73.3	82.5
	ことばの学習	39.8	62.0
	ものがたりの内ようを読みとる	45.5	62.5
	せつ明文の内ようを読みとる	48.5	60.3
	調べてまとめたカードを読みとる	33.0	48.0
	作文	56.3	76.8
観点別	話す・聞く能力	60.2	63.0
	書く能力	52.3	70.6
	読む能力	45.0	60.2
	言語についての知識・理解・技能	60.0	76.3



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	どの問題も全般的に低い傾向にあるが、その中でもこの「話し合いの内容を聞きとる問題」は、市の平均に近く、他の問題に比べれば出来がよかった。しかし、日常的にみると話をよく聞いている姿勢は一部の児童しかなく、話を聞いていないため、指示が通らないなどの弊害が多くある。今回は試験のため、さすがによく聞き、CDも通常よりゆっくりと話していたためこのような結果になったと分析する。	聞くことは、全ての学習の基本であることを児童にも繰り返し指導してきた。教師や友だちの話を集中して注意深く聞くことを今後も指導していく。また、聞き取りテスト等を実施した場合、できるだけ早く答案を返さないと、どんな内容であったかを思い出せないことがあり、誤答を直すにも直しようがない。なるべく早く返すようにし、どんな話の内容であったか共に確認する時間と場を設け、児童の聞きとる力を向上させていきたい。
かん字	「読み」においても「書き」においても、市の平均を大きく下回っている。漢字と計算は全ての学習の基礎・基本であるので、日ごろから十分取り組んでいる。日常の漢字テストは、10～50題を家庭学習等でできっちり練習した後に臨ませるため、多くの児童が満点及びそれに近い点数をとることができている。覚えた感じを長く覚えておくことが今後の課題である。	10～50題のテストで覚えた漢字を長く覚えておく手立てとして、既習漢字を使用する機会を増やすようにする。具体例として、スピーチ原稿や日記、手紙などに目を通した際、漢字にできるところを直させたり、間違っ書いた漢字を直させたりすることを引き続き行っていく。また、下の「ことばの学習」にも関連するが、読書量が多いほど、漢字を含む言葉の修得が高まるため多くの本を読むよう今後も勧めていきたい。
ことばの学習	どの問題も全般的に低い傾向にあるが、その中でもこの「ことばの学習」が、市の平均との差が一番大きい。特に国語辞典の使い方の問題(言葉を辞典に出でくる順に並べる問題)が低い。頭の中で、二文字目や三文字目を五十音順に並べることができなかつたり、できても時間が掛かったりすることが原因である。また、ローマ字についても接する機会を増やしてはいるが、読める児童は少ない。	国語辞典を国語の学習はもちろん他の教科等でも頻繁に使用するようにし、児童の語彙を増やすと同時に、辞書に馴染ませることで、国語辞典の使い方も自ずと理解できるようにしていく。さらに、国語辞典を引くものから読むものとして扱い、寸暇には国語辞典を読むよう指示し、言語についての知識・理解を高めていきたい。また、読書を今まで以上に奨励して、言葉の修得を高めていきたい。
ものがたりの内ようを読みとる	いずれの問題も市の平均を下回ったが、中でも「場面の移り変わりを読み取る」問題が市の平均との差が大きい。児童の実態として、問題文を一通り読んだだけでは、多くの児童が内容を把握できていない状況であることが原因として考えられる。また、「ことばの学習」とも関連するが、語彙が少ないことも内容把握を困難にしている。	ことばの学習の欄で記述したように、国語辞典を頻繁に活用し、語彙を増やすことで、物語文等の内容を把握する力を高めたい。また、登場人物の気持ちや場面の情景等をしっかりと確認しながら物語を読み進め、読後に抱いた感想を200字程度にまとめ、発表し合う活動を継続的にを行い、児童の物語の内容を読み取る力を高めていきたい。さらにその物語の一番好きな場面を理由をつけて発表する活動も続けて行っていく。
せつ明文の内ようを読みとる	これもどの問題も市の平均を下回った。やはり一番の原因は、語彙不足から来ているものと考えられる。中でも低い傾向にあるのは「文章の要点に注意して読み取る」問題である。日常的には、言葉の意味を調べた上に、説明文を何度も読んでいたため、何についての説明なのか、筆者は何を言いたいのか等は読み取ることはできている。やはりテストで一通り読むだけでの内容把握は困難な様子である。	何度も読み、段落ごとの要点を確認しての説明文の読み取りはできているので、1回読んだの内容を読み取るための手立てを講じる必要がある。具体的には、初発の感想を200字程度にまとめたり、1回読んだ後に筆者の最も言いたいことは何かを考え、それを20字程度にまとめたりする学習をしていき、何度も読んだ後のものと比べるということをしていきたい。また、一読後、筆者の言いたいことは何かをクイズ形式にして発問するなどして、児童の説明文に対しての関心を高めたい。
調べてまとめたカードを読みとる	これも市の平均を下回ったが、「資料を読み取ったうえで、適切な言葉づかいで話すことができる」ことをねらった問題については、全国、市ともに20点台であることから、3年生の実態にそぐわない問題であるとも考えられる。しかし「資料を正しく読み取る」問題に関しては、全国、市とも平均が60点台に対し、本校は40点台であるので、その力を高める必要がある。	資料を正しく読み取る力を高める手立てとして、他教科との関連が考えられる。資料が多く登場する社会や理科、算数の学習時に意図的に資料の読み取りをそこの設問以上に発問するなどして、その能力を高めていきたい。また、調べてまとめたことを短冊カードに記入し、そのカードをもとに発表原稿を作成する学習も国語や総合で行っていききたい。
作文	これもどの問題も市の平均を下回った。日常の学習を見ても、書くことを苦手としている児童が多く、作文などを書くことに抵抗がある児童が多い。限られた時間内に指定された文章を書くことができる児童は、数人のみであるため、今回このような結果となった。自分の思いを日常から書く活動を今後も行い、書く力を高める必要がある。	書く力を高めるために、国語の書く単元のみならず、様々な場面で書く活動を取り入れたい。具体的には、日記・スピーチ原稿、行事前の目標・行事後の反省・感想、手紙等を書かせるようにしたい。また、「は、へ、を」の適切な使用や段落の分け方等、文章を書くにあたり基本的な事項を繰り返し指導し身に付けさせていく。